

ふれあいネットワーク



社協

まつもと

明るい未来に
希望をもつて



幼児と楽しく手遊び 丸山保育士(右)と原科保育士



春の温かい日の光が感じられます。

昨年4月から、**松本児童園**（岩田滝彦園長：定員50名）で働く丸山美佳さんは、保育士である母親と同じように、子どもとかかわる仕事がしたいとの夢をかなえ、毎日忙しく園児と接しています。

丸山さんは「子ども同士の衝突もありますが、仲直りをして仲良く遊ぶ姿や友だちに優しく接するところを見ると、子どもたちの成長を感じます。家族や友だちを大切にできるように育ててもらいたいですね」

また「地域の皆さんと子どもたちの成長を一緒に見守りながら、私も成長したいと思います」と、明るく語っていました。



- ・防災と福祉のまちづくりフォーラムの報告… 2 P
- ・社協事業をご活用ください…………… 2 P
- ・社協波田地区センター移転のお知らせ…………… 2 P
- ・障害者施設の活動紹介…………… 3 P
- ・目の不自由な方への図書サービスについて… 3 P
- ・福祉まんが「あいちゃん」…………… 3 P
- ・ボランティア情報「こてまり」…………… 4～5 P
- ・平成22年度社協会費及び寄付のお礼…………… 6 P
- ・平成22年度赤い羽根共同募金のお礼と報告… 6 P
- ・平成23年度日赤社資募集…………… 6 P



平成23年 No.190
3月15日号

発行 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会 電話 27-2000
編集 社協まつもと編集委員会 FAX 27-2239
E-mail:syakyom@avis.ne.jp http://www.syakyo-matsumoto.or.jp

私にもできる安全・安心な地域づくり

減災をめざし、協働の輪をひろげよう！！

ー市民フォーラムに900名。参加者の熱気あふれるー



二月六日、「防災と福祉のまちづくりフォーラム」が、松本市、市民生委員・児童委員協議会、市社協の共催で、市民芸術館にて開催されました。行政、地域住民、企業、関係機関などが協働して万一災害が起きた時に、被害を減らすことを考え、常日頃から福祉の地域づくりを進めようと、町会長、民生委員・児童委員、防災連合会、防災リーダー、日赤奉仕団など約九百名が参加しました。基調講演では、前兵庫県知事で阪神・淡路大地震の復興を指揮した貝原俊民さんが、危機管理のあり方を説きました。

・災害は、「まさか」ではなく「もしか」したら起きるものと、考えておくことが必要です。

・災害時は平時ではないので、「人並み」という感覚は通用しません。行政にも限界があり、民間（住民）が団結し、共助の心で助け合うことが大切です。

パネルディスカッションでは、新潟県中越沖地震以降、福祉事業者等の支援に関わっている柏崎市の田畑洋さん、堺市の民生委員・児童委員の寺田明男さん、入山地区区町会連合会会長の大澤俊郎さんが体験談を語られました。

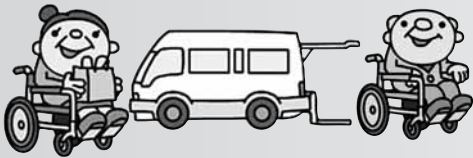
・被災初期の最大の復旧力は「地域互助」。地域で、自力で三日間を過ごせる力をつけましょう。

・地域の様々な団体がつながり合って、ふれあい、見守りあうことが重要です。

・防災と福祉のまちづくり講座を通して、様々な立場の人がつながり、日頃からの災害時に対する心構えが芽生え出しています。

社協事業をご活用ください！

松本市社会福祉協議会では、皆さまからお寄せいただいた会費や共同募金の配分金等を活用して、安全・安心で地域に根ざした福祉活動を、市民のみなさんとともに推進しております。お気軽にお問い合わせください。



- ・福祉自動車の貸し出し事業
- ・車いすの貸し出し事業



- ・福祉講演会やボランティア講座への講師の紹介や調整
- ・地域福祉を推進する出前講座等の活動支援
- ・学校や企業が行なう福祉教育への協力
- ・ボランティア活動保険の加入手続き等

【問い合わせ】松本市社協地域福祉課 電話25-7311・27-3381

波田地区センター事務所移転のお知らせ

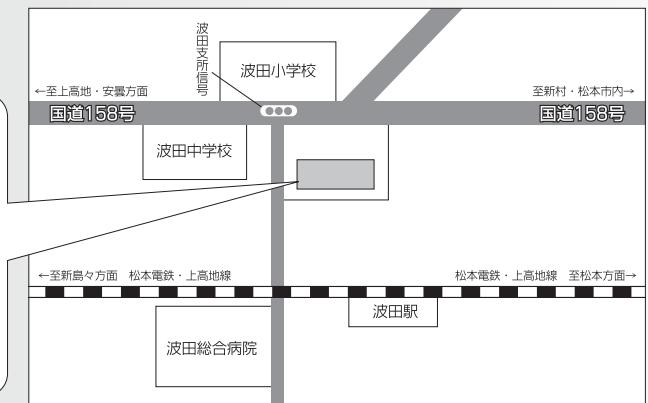
社協波田地区センター事務所は4月1日から、波田保健福祉センター内から下記へ移転します。

【移転先新住所】

〒390-1401
松本市波田4417-1 松本市役所波田支所3階
電話88-6502 Fax92-3886

【異動した係業務】

地域福祉業務、はたヘルパーステーション、
はた居宅介護支援事業所（ケアマネジャー業務）



※なお、障がい者就労センター・はたも4月1日から電話番号が92-3355に変わります。福祉施設（波田デイサービスセンターふれあい、きたはらっぱ、障がい者就労センター・はた）は従来の場所で運営いたします。

42施設が出店、販売を通して交流 ナイスハートバザールin松本



県内の障害者福祉施設・共同作業所が加盟する県セルブセンタ―協議会の「ナイスハートバザールin松本」が、カタクラモールフェスティバルコートで、二月十八～二十日の三日間行なわれました。

今回は、松本地域を中心とした障害者施設の他、諏訪、木曾、南信ブロックから四十二施設が出店し、自主製品の販売を通して、施設利用者と来場者がふれあいました。



バザールは大盛況！

出店した施設も、手工芸品、装飾品、パン、おやき、レトルトカレー等の食料品などたくさん品物の中から、商品を手にとっていたら、大きな掛け声や来場者への対応の音が活発でした。

また、各障害者施設はおすすめの商品を持ち寄り、共同で袋詰めした福袋を百五十個用意して販売。その他、「ゲセラ」などによる演奏会、ジャンケン大会も大勢の来場者

で大盛況の三日間となりました。

販売に参加した施設利用者は「たくさんの人に品物を買ってもらってうれしかった。また、いい物をいっぱい作りたいと、疲れたけれど楽しかった。買っていった人もうれしそうだった」

参加した職員も、「地域の皆さんに福祉施設の活動と自主製品への理解や協力をいただく場になったと思います」とのこと。

このような障害者福祉施設の販売会は、これからも行なわれます。

大勢の方々に関心を持っていただくことが利用者の励みと自立、さらには製品の質の向上、就労支援に役立ちますので、「支援」の協力をお願いします。

手軽に本を！障害をもつ方への図書サービスはいかが

松本市中央図書館では、目の不自由な方に気軽に本に親んでもらおうと、音声データをCDに書き込む録音図書を朗読赤十字奉仕団「ひびきの会」の協力を得て作成して、この一月より貸し出しを始めました。このサービスは、専用プレーヤーで気軽に音声図書を楽しめる「**レイジー図書**」と言い、郵送貸し出しするものです。

同館は以前から、目の不自由な方に朗読ボランティア「朗読ふれあいの会」による対面朗読サービスや、身体の障害などで図書館への来館が困難な方に図書資料や録音図書を宅配する「やまびこ文庫」を行なってきました。

この日は、知人の紹介でレイジー図書を知った、視覚に障害をお持ちの粟澤草さん（七十七歳）のお宅へ、同館職員がプレーヤーの操作方法を説明しに訪れました。

粟澤さんは、視覚を失う前はエッセイ、小説、ロシア文学などの本に親しんでこられ、このサービスを紹介してくれた知人と、また本に親しめることが出来る図書サービスに感謝していました。

また、同館では利用者のリクエストに添えるため、蔵書の充実を図るほか、他館との相互貸借により蔵書を探して、見つければ貸し出し対応もしています。



説明を受け機械にふれる粟澤さん

【問い合わせ】

松本市中央図書館 電話 32-0099

ボランティア情報 こてまり

- 『こてまり』はこんな情報を発信しています！*****ボランティア活動についての情報・活動者、団体の紹介・講習会や行事などの紹介
- 問い合わせ/記事掲載の申し込み*****松本市社会福祉協議会内ボランティアセンター TEL(0263)25-7311 FAX(0263)27-2239

ボランティアを楽しんでいます

春がそこまで...



ボランティア活動紹介



ひまわり ～向日葵（一条あきら）歌謡ショーボランティア～

歌謡教室の先生でCDも出している一条あきらさんと生徒さんたちは、カラオケ歌謡ショーのボランティア活動を続けています。

「知人のデイサービス職員の方から頼まれたのがきっかけです」と語る一条さん。一生懸命聴いてくださる皆さんの姿にやりがいを感じ「歌と一緒に心を届ける」気持ちで臨んでいるとのこと。歌の大会や発表会とは違う感動を味わえるこの歌謡ショーボランティアを、これからも続けたいとおっしゃっていました。



老人福祉施設「エリシオン開智」では、一条さん、神戸さん、松さんが歌を披露してくれました。さすがの歌声に聞き入るだけでなく入居者の皆さんも一緒に歌い、全員で楽しい時間を過ごしました。

ショーの終了後、入居者の方が心から「ありがとう」と一条さんに握手をされたことがとても印象に残りました。(取材：宮田美保子)

～乳児院を支えて……本郷地区日赤奉仕団～

「子ちゃんたちがかわいくて、かわいくて！」本郷地区日赤奉仕団のみなさんが口々におっしゃいます。地元にある児童福祉施設「赤十字乳児院」でボランティア活動を始めて18年。この施設は満3歳になるまでの乳幼児の福祉施設で、子守りや縫物や行事の支援などを継続してきました。

今日は、ひなまつりにちなんだ「お花すし」の日。毎年恒例になった行事ですが、朝から材料を準備して「どうしたら喜ぶかしら？」と思いを巡らせながら作ったおすし。みんな笑顔でほおばっていました。ボランティアのみなさんも一緒にニコニコ、楽しいひと時を過ごしました。



きれいなお花すし

～ボランティア活動は、元気の秘訣……新田整子さん～

「読み聞かせ」ボランティアとして活躍しています。主な活動先は病院やデイサービス、福祉施設で高齢者を対象に楽しい時間を提供しています。はじめに大きな声で歌いながら手あそびや体操、レクリエーションを楽しみ笑顔でリラックスした後、心に残る民話の語りや紙芝居を行なっています。

新田さんの優しい声に引き込まれて皆さん感動の笑いとお涙…。

また、児童センターへも「あのねの会」としてメンバー3人で出向き、元気な子供たち相手に活動をしています。





賑やかに、笑顔の一日



平成22年度ボランティア交流集会の報告！大勢のご参加ありがとうございました

2月5日土曜日、松本市総合社会福祉センターで「笑顔でおつきあい」をテーマに松本市ボランティア交流集會が開催され、約280名の皆さんが参加しました。午前の活動発表では6団体がステージ上で活動内容を発表。楽器演奏、フラダンス、舞踊、寸劇など皆さん大変芸達者で会場は大いに盛り上がりました。グループではなく個人で活動が続けいらっしやる方もいて、その行動力に感心しました。

アニマルセラピーの活動発表では犬2匹が登場し参加者を和ませました。このように福祉施設の皆さんにも犬たちと触れ合う機会を提供されているそうです。

6団体の発表後には飛び入りで4団体の方が活動内容をPR。とても積極的で、活気のある交流会でした。



パラグアイの楽器
素敵なアルパの音色



様々なボランティア活動の発表

楽しい寸劇「かさじぞう」
ちいばっぼの皆さん



新鮮組の皆さんの艶やかなおどり

《ウェルカムコンサートの演奏》

メイプルサウンドジャズ
オーケストラの皆さん



「ほけちゃったらどうしよう」
高木先生の講演

午後の部では、「諏訪中央病院の長淵剛」こと高木宏明先生に認知症に関する講演をしていただきました。講演会の所々で心に沁みる歌がはいり、コンサートを聴いたような感覚でした。

また、ドクターならではの体験に基づいたお話の中にもユーモアがあり、引き込まれているうちに時間が過ぎてしまいました。患者の心に寄り添う診療をされている先生のお人柄が感じられるすばらしい講演会でした。(取材：宮田美保子)



「ボランティア活動をする時は保険に加入しましょう！」

～平成23年度分の受け付けを3月1日から始めました～

手続きは、松本市総合社会福祉センター5階（松本市社会福祉協議会事務局）、社協（四賀、安曇、奈川、梓川、波田）の各地区センターまたは松本市役所大手事務所2階（松本市市民活動サポートセンター）で行なっています。

ボランティア活動保険 コーヒー1杯分で、1年間の活動をサポート



★保険内容 ボランティア活動中、または活動の行き帰りの途中に起きた事故によるご自身のケガや賠償責任（他者にケガをさせてしまったり、物を壊してしまったりなど）を補償します。ただし自動車による事故はボランティア自身のケガのみが補償の対象となります。

★保険料（年間） 1名 A：280円、B：420円（地震等の天災に対応したプランもあります）

★補償期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日

★補償内容（例A） <死亡>1400万円、<後遺障害>1400万円（限度額）、<入院>7000円/日
<通院>4100円/日、<賠償責任>5億円（限度額）

そのほか福祉活動などさまざまな行事における事故を補償するボランティア行事用保険や、自動車での送迎サービス中の事故による利用者のケガを補償する送迎サービス補償があります。



詳しい内容についてはボランティアセンターにお問い合わせください

問い合わせ
TEL25-7311

平成22年度 社協会費及び寄付のお礼

世帯会費	77,034世帯	23,110,200円
団体・施設会費	47団体	94,000円
賛助会費	146口	1,040,900円
特別会費	40口	57,000円
	計	24,302,100円

寄付金	26件	2,562,663円
物品寄付	35件	

物品の寄付は車いす等福祉用具の他、アルミ缶や古切手、タオル類、書き損じはがきなどたくさんのご厚志をいただきました。

皆さまからお寄せいただいた社協会費・寄付は、地域の社会福祉事業に活用させていただいております。ご協力ありがとうございました。

(平成23年2月28日現在)



社協への賛助・特別会員並びに寄付者のご芳名は、次号に掲載いたします。匿名を希望される場合は、お申し出ください。連絡先 地域福祉課 電話27-3381

平成二十三年三月十五日号 第一九〇号

発行人 社会福祉法人 松本市社会福祉協議会

会長 渡辺 聰

松本市双葉四番十六号

印刷所 信州印刷株式会社

赤い羽根共同募金 ご協力ありがとうございました

共同募金運動は、市民の皆さまのご理解とご支援をいただき、大きな成果をあげることができました。お寄せいただいた募金は、地域福祉推進のために大切に使用させていただきます。



35地区社協事業へ

敬老会、ふれあい会食会、子育て講座、町会福祉事業（福祉講座、見守り活動事業）等

14,939千円 (37.1%)

市社協福祉事業へ

「社協まつもと」発行、市社会福祉大会、児童遊園地整備、福祉自動車や車いすの貸し出し等

9,046千円 (22.4%)

県内の福祉事業へ

社会福祉団体、社会福祉施設、災害被災世帯への配分等

16,317千円 (40.5%)

平成22年度

- 目標額 34,634千円
- 実績額 40,302千円
- 達成率 116.4%

平成23年度 日赤社資募集運動にご協力ください!

赤十字社は、世界最大186カ国のネットワークを持って活動する人道機関です。

2009年～2013年までの間、「赤十字150年」キャンペーンを実施しています。スローガンは「Our world. Your move.」。苦しんでいる人々を救うために、一人ひとりが身近なところから行動を起こそうという趣旨で、様々なイベントや活動を通して呼びかけています。

活動の財源となります社資を、日赤松本市地区では5月1日から始まる赤十字運動月間に合わせ、平成23年度社資募集目標額を39,426千円とし、社資募集運動及び受付を開始します。

赤十字の活動をご理解いただき、ご協力をお願いします。

皆さまにお寄せいただく社資は、赤十字の国際活動・災害救援活動・救急法講習会や地区・町会で行なわれる炊き出し訓練等に活用されます。



日本赤十字社

Japanese Red Cross Society

長野県支部松本市地区

電話 0263-27-3381

FAX 0263-27-2239

「社協まつもと」はみなさんからの共同募金の配分金で発行されています。